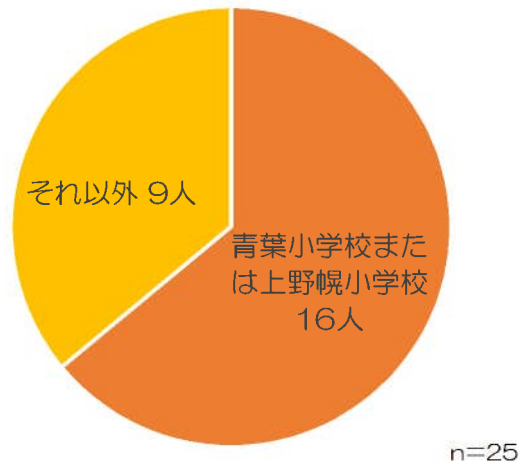


新札幌わかば小学校における
「新しい小学校になったことについてのアンケート」

教員 結果

【質問1】新札幌わかば小学校に勤務される前の学校はどちらですか。

<択一回答>



【質問2】（児童の様子の変化について）

新札幌わかば小学校が開校して、9か月が経過します。青葉小学校・上野幌小学校当時や、開校当初と比較し、児童の様子はどのように変わりましたか。良い点や今後配慮を要すると思われる点等について、お答えください。

児童の様子・生活面や学習面に関すること

- ・行事や活動を通して互いがわかってきたため、元上野幌と元青葉の子たちで遊ぶことが多くなり、保護者からも交友関係が広がったと喜ばれている。
- ・統合前の交流が活かされ、子どもたちは心配していたよりもスムーズに友人関係を作っていたように思います。
- ・人数が増えてきた良さを生かしたことで、対人面の成長がみられる。はじめは、同じ学校どうしの関わりが多かったが、今では、青葉、上野幌関係なく関わっている。
- ・現在では、青葉と上野幌関係なく、仲よく過ごしていると思います。委員会やクラブなども協力して取り組んでいます。

- コロナ禍で、子どもたちの活動にも制限が多々あるが…その中でも、生き生きした表情がみられる。昨年度までの子どもたちの表情は知らないが、明るい雰囲気がある。
- 開校当初は、少し距離を取って接しているようでしたが、現在は、以前の学校関係なく、仲よく楽しく遊んでいる。授業の雰囲気についても、お互いのよさを生かしながら、新たなスタイルが定着しつつある。
- 子どもたちは、慣れるのが早いです。大人が思うより関係は、とてもよいものになっていると思います。
- 担当している学年の児童も他学年の児童も、1学期で学校の雰囲気にも慣れ、元青葉の子と元上野幌の子がまざって積極的にかかわり合うようになった。
- 開校当初は「元青葉小」「元上野幌小」を意識していることが多かったのですが、日を追うごとにその壁が無くなっていき、仲よく活動するようになっていきました。そのため、統合前よりも子どもたちの交友関係が広がっているようです。
- 上野幌小、青葉小との境はなくなり、一緒に色々な活動に自然にとりくむようになったと思う。
- 上野幌出身、青葉出身という気持ちがほとんどなくなり、同じ学校、同じクラスの仲間という連帯感ができてきている。友達関係が広がっている。
- 低学年はすぐに他校の子とも仲よく生活しているように見えます。高学年は時間がかかったようですが、宿泊学習や修学旅行などを通して距離を縮めているように見えます。
- アンケート（統合前）では、不安をかかえていた児童もいたが、現在は仲よく生活している。6年生は、1年生に対してとても親切にやさしく接することができている。
- 子どもたちは、今までより友達が増え、楽しいと思っているようです。授業にも活気があり、元気いっぱいやる気をもって学習する姿が見られます。（学びのサポーターさんからは、昨年より落ち着いて学習する姿が見られると言われ、成長したのだと思います。）
- 友達の幅が広がり、授業の雰囲気にもなれ、意欲的・積極的に参加し、授業内での発言が増えてきた。
- 新型コロナウイルス感染症の流行により、休校措置がとられ、当初予定していた活動が制約さされる形となったが、少しずつ新しい学校にも慣れ、友人関係にも広がりが見られるようになってきました。
- たくさんの友達と交流ができ、よい刺激になっていると思います。
- 開校当初と比べ、学校に慣れ、あいさつなどが増えたが、学校の約束事があまり守れていないと思う。（廊下の歩き方、トイレの使い方など）

指導や学校運営に関すること

- あたらしい環境にも慣れ、のびのびと生活している。開校に合わせて、コロナによる様々な制限があったため判断がむずかしいが、集団としての意義づけが今後の課題だと感じる。
- 新しい友達や教師と良い関係を築くことができおり、人間関係の広がりがみられた。今年度はコロナという特殊な状況にあるため見取りが難しい。
- 友人関係は良好、授業や生活などの雰囲気・態度はとてもよい。ただ、少しずつ学校への慣れが出てこない様に注意深く見ていきたい。
- 児童の人数も増え、校内の活気が増した。あいさつの声も響くようになり、学校らしさがでてきた。コロナ禍であり、なかなか児童の交流を積極的にはできなかったものの、たくさんの人と関わっているのはプラス面と感じている。ただ、余剰教室が少ないため活動の幅がせばまった面もある。本来の目的とは別の使用もあり特別教室を使用する頻度が増え、教具の破損も多くなったと感じる。生徒指導として大切ではあるが、開校の年は児童の心理面も踏まえて、十分にスペースのある環境を整えたい。
- コロナでの休校期間が長く、1学期はなかなかふれあう機会も少なく仲よくなれずに終わってしまった感じがしていたが、2学期は友人関係も広がりトラブルもあったが本来の学校生活をとりもどしてきていると思います。児童数が増えた分、一人一人の見取りをしっかりと行っていかなければいけないと思います。

【質問3】（教員の取組等について）

新札幌わかば小学校を開校するにあたって、開校前・開校当初から様々な取組があったことと思います。これまでの取組について、具体的にどのようなものがあり、どのように対応されたか、良かった点や今後の取組に向けた改善点などについてお聞かせください。

児童への取組

- 児童同士が知りあい、仲よくなるために統合前から交流活動を計画的に行っていた。（各学年の交流、交流遠足、全校交流会など）
- 学校のルールの違いに少し混乱する子どもがいた。新札幌わかばのルールを伝え、少しずつ学校のルールに慣れていった。
- 両校での交流が数回あり、子どもにとっては見通しやいい意義づけができスムーズに開校できた。半面、保護者は、青葉小からの変化に、戸惑いがあり、様々な要望があった。（通学路、懇談の持ち方など）
- 特別支援学級同士の交流を3～4回行った。互いに少し認識はできていて、統合時にスムーズに4月からの活動をはじめることができた。
- 青葉小と上野幌小が統合する前に子どもたち同士の交流会（秋の遠足）を行いました。少しでも知っている人を増やすことで子どもたちも安心できたと思います。

学校づくりの取組

- 新しい校歌や校章などに、自分も子ども達も希望の光を感じています。
- コロナの影響で、開校式がVTRになったが、学年発表という形で行うことができ、全校で祝うことができたことがよかった。
- コロナ対策のため、計画したように進めることが難しかった。その分、本当に必要なことが何なのか、よく見えたことは収穫である。活動や業務のヒントが得られた。慣例も大胆に見直すことができるのは、新設のよい点でもある。
- 新設校としての意識付け、通学路変更など、やはり、初めてのことばかりなので（保護者も子どもも）その対応に追われていました。
- 開校に向けての通学路の取り組みは両校の校長先生、教頭先生を中心に入念な準備のもとで、開校できたのは大変よかったと思います。また、学校のルールも統合を見据えて統一をはかっていたのも良かったと思います。校章、校歌も平岸高校や青葉中などと連携をして進めら

れたのは良かったと思います。

- 開校当初、感染症拡大防止策を取りながら、交流機会をたくさん設けた。体育のグループ、教室の座席など、新しい友達を増やし、仲よくしていけるよう関わった。
- 学校の柱(学校教育目標)の策定と教育方針→保護者や地域へ周知、事前に説明会を開くことで、保護者の不安や、地域の課題が整理され、解消されていく。
- 保護者 ～ 一方の校舎を新設校としてスタートすることに、やはり抵抗感は大きく深いものがある。開校にプラスの意識を持ってもらうため、学校としての手立てやエネルギーがかなり必要となり、開校業務に大きな負担となる。そのために学校説明会での理解を深める手立てを工夫した。

児 童 ～ 開校一年前からの交流活動がよかった。

事務的な取組

- 0からスタートということで、必要なもの必要のないものを精選できることは、とてもよい!
- 青葉小と上野幌小で連携をとって行った 児童の引き継ぎも両校合同で行うことができて良かった。
- P T A 設立準備 (P T A 役員選出、規約作成、年間活動計画、組織図作成、予算案作成など)、保護者による交通安全見守りボランティアの募集・配置 (開校直後、PTA 設立前) 等を行った。
- 開校式、3月に実施しなくてもよいのではないか。コロナの状況の中で祝う会として実施したが、(VTRであったが) とてもよい内容であったと思う。
- 統合する学校以外からの着任であったこと、コロナにより当初の予定が変更になったことで、自分自身ほとんど協力できなかった。

【質問4】（その他）

質問2・3のほか、学校統合についてご意見等ございましたら、ご自由にお書きください。

- コロナの影響もあり、春先の業務は、ほとんど、上野幌と青葉の先生方で行って頂いたのが申し訳なかった。子どもたちの引き継ぎなども含め、ていねいにして頂き、落ち着いた環境で開校を迎えることができました。
- 職員同士の雰囲気が大変良好だと感じるので、児童も生き生きしていると感じる。
- コロナの影響で開校式が延期で、内容も開催方式も変更されたが児童とともにお祝いができ、よい形だと思った。
- トイレがきれいになり、洋式も増えて大変良いです。
- 学習指導要領改訂と同時の開校は区切りとしてはとても良いのだが、学校の用具の準備等（特に教科書整備など）で、例年にない業務があり年度末の統合校から新設校（特に校舎を使用する側）の先生の負担が膨大であった。開校する年は、よく考えるべきだと感じた。（いろいろな問題があると思いますが）新しい場所に新しい校舎を作って、学校統合を進めるのがベストだと思います。
- 地区センター、ミニ児も一緒の建物なので、教室が足りなくなると思う。普通教室と音楽室が同じ階にあり、合奏している時は、普通教室の学習に支障をきたしています。できれば新校舎を建ててほしかったです。
- 地区センター、ミニ児童会館を併設する旧上野幌小の校舎を活用することとなりましたが、児童の活動を保障するという観点から考えると、旧青葉小または新築した方が良かったのではないかと思います。
- いろいろな事情があり、仕方のないことですが…校舎の教室数、校外学習での移動のしやすさ（地下鉄駅まで徒歩で行ける）などを考慮すると、青葉小を校舎として使った方がよかったですと思います。これから統合する学校は、校舎や立地条件も考慮して決定するとよいと考えます。
- 工事による児童への影響を最小限にすること。（難しいです）できれば、別場所への新築がよいです。
- 空き教室が少なくなり、少し残念です。（4Fが地区センターのため）
- 図書館が狭くなったと元青葉小の子どもたちは言っています。
- 工事とコロナの対応で今年1年間、本当に大変でした。統合前に工事が終わっていれば（児童数が少ないうちに）よかったのにと感じました。以前に統合した学校のノウハウがもっと生かすことは、できないのかと思いました。

- 改修工事は統合前に終わっているとよいが、改修中の児童への影響は（音、臭い）大きい
ため、より配慮が必要。